

# 第160号

(第2次先住民族の10年第5年目・2009年第10号)

# 先住民族の10年 News

発行所	先住民族の10年市民連絡会 〒166-0003 東京都杉並区高円寺 南3-24-10-403 小林方
TEL&FAX	03-5932-9515
E-mail	indy10-Lj@infoseek.jp
振替口座	00260-7-57053
加入者名	先住民族の10年市民連絡会
購読会費	3000円(個人)、10000円(団体)
発行日	2009年12月19日



記事8ページ  
シネミンガから寄附された撮影機材を囲んで。避難生活を  
しているコロンビアのナサ民族のコミュニティにて。関連

## 先住民族の10年ニュース第160号目次

誰のための巨大ダムか?～フィリピン台風被害とサンロケダム.....	波多江 秀枝	2
「イタカンロー」から見るアイヌ語のこれから.....	大野 徹人	5
世界に広げたい!先住民族メディアネットワーク.....	溝口 尚美	8
「アイヌ政策有識者懇談会」の政治学入門⑦.....	手島 武雅	10
ペウレ・アイヌ～あの人この人～(15).....	竹山 順一	14
漫画エッセー⑬アイ ヒューマノイド.....	成田 英敏	15
生物多様性と先住民族(6).....	細川 弘明	16
イベント紹介.....		18

★記事を転載する場合には先住民族の10年市民連絡会の許可を得てください。

「先住民族の10年市民連絡会」ホームページ <http://indy10.at.infoseek.co.jp>

メールでの問合せは indy10-Lj@infoseek.jp まで



# 世界に広げたい！

## 先住民族メディアネットワーク

溝口 尚美 (シネミンガ共同設立者)

2009年、私は合計5カ月もの日々を南米コロンビアで先住民族ナサの人々と過ごすこととなった。シネミンガは生まれたての団体だが、先住民族との協働のもとにメディアの可能性に取り組む私たちの活動を紹介したい。

### ●シネミンガの原点・ナサ民族

シネミンガは、北米ニューヨークと南米コロンビアに拠点を置くNPO法人です(ニューヨークは、法人化を申請中)。「ミンガ」は、ケチュア語で「社会を良くするための協働作業」を意味します。シネミンガは、映像(シネ)を媒体に、先住民族と映像作家が協力(ミンガ)して制作し、地域コミュニティの伝統文化を強靱にする事、「声」を発信する事、地域間交流のプラットフォームになる事を主な目的としています。

シネミンガ代表のカルロス・ゴメス(コロンビア出身ニューヨーク在住)は、2007年にコロンビアのティエラデントロを訪れました。ウイラ山という火山が約500年ぶりに活動を始め、ナサ民族が生活の場所を追われているという情報を得たのがきっかけです。最初はカメラなしでコミュニティを訪れ、少しずつ交流を重ねながら、幾度目かの訪問で、ナサの人々と一緒に映画撮影を始めることになりました。

ナサ民族の間では、火山活動は人間の暮らしと自然環境との相互作用で起こるとされます。ティエラデントロに聳えるウイラ山は、地域を見守る霊山です。この度の噴火は、開発問題や内戦で混乱する人間社会に、山が危険信号を送っているサインなのです。事実、土石流が道路や森林を崩壊したために、開発はストップ。ゲリラ・パラミリタリー(準軍事組織)・政府軍の間の戦闘も小休止しました。悲しい事実は、土石流で地元の人命が失われたこと、生き残った人々は故郷を離れ、避難生活をせざるを得なくなったことです。危険地帯

であるために、政府は教師と医師の派遣を打ち切りました。被害を免れ運良く残った農地には、火山灰が降って作物が育たなくなり、人々は主な食料を国連物資に頼っています。コミュニティの代表は2年前から、日常生活を続けられる場所の提供を政府に要求していますが、政府は無視し続けているそうです。

火山噴火の兆候が始まった頃、人々は「昆虫が高い所へ行き始めた」「おじいさんとおばあさんが、噴火を暗示している不思議な夢を見た」などの体験をしました。避難生活が落ち着き、映画制作に参加することになったナサの人々とカルロスは、そんな「人が本当に見た夢」と「先住民族の精神性」をモチーフに、ストーリーを組み立てました。主人公は9歳の少年。少年が見た夢の世界・夢を解釈するメディスンマン・避難生活・移住という一連の事実に基づいたフィクションで、ナサ語で表現します。30分程度の短編映画ですが、避難生活や日々の様々な事をこなしながら、時間を見つけての撮影であることと、制作費が私たちの個人投資で資金的に厳しい面もあり、なかなかスムーズには進んでいません。でも、2010年2月には撮影を終え、形にする予定です。

### ●シネミンガの目指すもの

2009年1月に、私は初めてティエラデントロの被災地に行きました。現地に機材がないこと



コロンビアの聖なる湖フアンタマで撮影中



## 世界に広げたい！先住民族メディアネットワーク

が分かっていたので、中古の家庭用ビデオカメラの寄附を募ったところ、有り難いことに、5台のビデオカメラと2台のパソコン、1台の三脚が集まり、現地でビデオワークショップを行い、機材を提供することができました（残念ながらカメラは4台が故障中です）。

5月、ホンジュラス居留区で、コミュニティリーダーのローバー・グアチェタさん（享年41）が殺される事件が起きました。これを知ったシネミンガ・ナサのメンバーの1人は、私とカルロスがコロンビアを離れている間に、現地で撮影を始めました。そして2カ月後、約20分のドキュメンタリーが完成しました。撮影には、日本から寄附を受けたビデオカメラも活躍しました。先住民族リーダーへの脅迫や殺人事件は以前から起こっていますが、よっぽど大きな事件でない限り、メディアが報道することはありません。この作品は、ローバーさんの事件を伝える世界で唯一の映像です。シネミンガ・ナサのメンバーは、作品を様々な集会の際にナサ民族コミュニティで上映し、強いメッセージを多くの人々に伝えることができました。大切な事は、悲しい事件をこれ以上増やさないために、地元の団結力を強めることなのです。

私たちは、世界各国に「先住民族メディアネットワーク」を広げたいと考えています。日本政府がアイヌを先住民族と認めた2008年、私は咄嗟に、アイヌ民族のコミュニティで何かできないだろうかと考えました。アイヌ語のビデオ教材、ユカラや踊り等の文化記録、国内外に訴えるドキュメンタリー制作など、ビデオが役立つ事柄は、いろいろ考えられます。今年の夏、カルロスも初来日して1カ月間、アイヌの人々と時を共にし、少しずつですが、活動をスタートさせました。また、ローバーさんのドキュメンタリーも日本語版にして上映しました。そして、ナサ民族とアイヌ民族の国際交流を実現したいという目標ができました。

シネミンガの拠点はニューヨーク。国連で開催される「先住民族問題に関する常設フォーラム（通称：パーマネントフォーラム）」では、世界の先住民族の代表者が一堂に会します。この

機会を活かして、ビデオ上映や交流会、ビデオワークショップなどのサイドイベントを、来年春の実現に向けて企画しています。ローカルでメディア技術を向上させるお手伝いをしながら、グローバルなネットワークのプラットフォームになる。これがシネミンガの役割です。

### ●私が考える市民メディア

私は1996年から、フリーのディレクターとして、関西を拠点に働いてきました。テレビ放送に携わり始めてから、その即時的で影響力のあるメディアに魅力を感じながらも、自分の中でひっかかる「何か」を感じてきました。取材させていただいた人が伝えたかった事を、本当に伝えられているのだろうか？という疑問。それは「撮影や編集方針を、当事者抜きで、制作プロダクションや放送局が決定する」という形態の気持ち悪さではないか、社会における「私の役割」を、ディレクターとは違うところで探してみることにしました。そして辿り着いたのが、シネミンガの活動です。当事者が伝えたい事を自分たちで表現する、これに協働に関わるプロセスは、完成作品そのものよりも興味深い経験です。

高品質な機材が安価で入手できる今の時代、メディアはもっと市民に開放されるべきで、多種多様な視点の作品を発信・受信できる事が、豊かな社会をつくる一助になると私は思います。シネミンガの活動は、始まったばかりです。それでも、人々と交流を積み重ねる中で、確かな方向に歩いている自分を、今、強く感じています。

\*\*\*

シネミンガの活動に興味がある・プロジェクトに参加したい方は、遠慮なくご連絡ください。また、新品/中古のビデオカメラやコンピュータ・機材購入や活動資金の寄附は、常時募っています。必ず、必要としている人に届けます。

<http://www.cineminga.org>

<http://blog.canpan.info/cineminga>

E-mail: [naomi@cineminga.org](mailto:naomi@cineminga.org)